八街中学校 青木 陽大先生 が選んだすてきな1冊

『雨の日も、晴れ男』　水野　敬也／著　文藝春秋　（文春文庫）

例えばある朝、目を開くと目覚まし時計が壊れている。もう遅刻は確定だ。３０分も寝過ごしている。そんな時あなたならどうする？時計を投げて八つ当たり？アレックスはこう時計に声をかけた。「君は私をもっと眠らせてあげたいと、時計の針を止めてくれたんだね。」幼い２人の神様のいたずらによって不幸な出来事が起こるアレックス。しかし、会社をクビになっても、妻子が出て行っても、常に他人を楽しませ、前向きに生きていた。人生で大切なことは何かを教えてくれる、笑って泣けるエンターテイメント小説です。雨の日だって前向きに。

次回(Summer　vacation26)は、
八街中央中学校　岩井 柚樹　先生です。 どうぞ、お楽しみに.....

『ゴリラは語る』　山極 寿一／著　講談社（15歳の寺子屋）

著者はゴリラ研究の第一人者です。誰よりもゴリラのことを知っている著者でも、まだまだ分からないことがたくさんあるようです。それに、驚いたのは、コミュニカや家族のあり方、更には、ヒトにとって大切なことをゴリラから教えられるということです。　シリーズあり

ジュニア司書おすすめ

『この終末、ぼくらは100日だけの恋をする』
似鳥　航一／[著]
KADOKAWA（メディアワークス文庫）

大切な人と過ごす時間は限りがあって、その限られた時間はあまりにも切なく大切でかけがえのないものか、身に染みて感じられる1冊です。

ジュニア司書マイスターおすすめ

図書館おすすめの本

『三軒茶屋星座館　1　冬のオリオン』
柴崎　竜人／[著]　講談社（講談社文庫）

ジュニア司書マイスターおすすめ

何気ない日々や会話。些細な事の中にも真心の温かさを感じられずにはいられなくなるような本です。
心が寒い時、イチ押しの１冊です。

続編あり

『13歳からの地政学 カイゾクとの地球儀航海』
田中　孝幸／著　東洋経済新報社

「地政学」という言葉を知っていますか？
一言でいうと、「地理＋政治」。ちょっと難しそうに思うかもしれませんが、高1と中1の兄妹が、カイゾク（見た目が海賊っぽい）と呼ばれる男性との、地球儀を使った7日間のレッスンを通して、気軽に学ぶことが出来ます。
普段、目にする地図は日本が真ん中になっていますよね。でも、地球儀で別の角度から世界を見ると、今まで気づかなかったことに気づきます。なぜあの国は強いのか、なぜあんなことをするのかなどの理由が、その国の地理的状況などから解き明かされます。　（電子図書もあります）

『つる子さんからの奨学金』まはら　三桃／作　偕成社

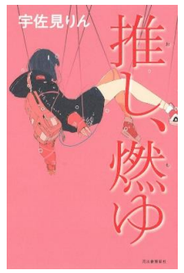
ある日、99歳の曽祖母（大おばあちゃん）のつる子さんに呼び出されたひ孫のわかば一家と樹（たつき）一家。そこで、つる子さんは、受験生になるひ孫ふたりに、高校の学費（奨学金）を出すという提案をする。つる子さんが子どもの頃、女だからというだけで進学に大変な苦労をしたことが発端だ。ただし、そのためには条件があり、それは、今の実力よりひとつ上の学校をめざすことだった。高校受験とバレー部の両立、応援し心配する親からのプレッシャーに悩みながら（たつき）も、わかばは気持ちに少しずつ芯ができてくる。また、元々成績優秀な樹（たつき）も、自分の目指すものを絞り込んでいく。自分の未来について、悩み、苦しみながらもきちんと自分の意見をもって前に進む決断をしたわかばと樹の決意表明は見事だった。
ふたりの出した結果に、それぞれ驚きがあったけれど、その決断にあっぱれ!!

『とんび』
重松　清／著　KADOKAWA

不器用な父親が、男手ひとつで息子を育てる、親子の絆を描いた物語です。親子を取り巻く、人情に厚く、お節介な人々に助けられながら、様々な困難を乗り越え成長していく息子と、年老いていく父親の、親子の姿に感動です。

ジュニア司書おすすめ

『推し、燃ゆ』宇佐見　りん／著　河出書房新社



この物語は、「推し」が出てくるお話です。家庭も学校生活もうまくいかず常に生きづらさを感じていた主人公のあかりは、ＳＮＳでアイドルグループの「うえのまさき」君を見つけ「推しを推す」ということに目覚めます。でも、ある日突然推しの「うえのまさき」君が、ファンの子を殴ったというニュースが流れて.....。
芥川賞受賞作品ですが、中学生の私でも読みやすくとても面白い本です。　（電子図書もあります）

ジュニア司書おすすめ